

# 接尾辞－ゲについて

2004（平成 16）年入学  
言語学・応用言語学専攻  
1LT04072Y 高波 裕

2009（平成 21）年 1 月提出

## 要旨

本論は接尾辞 - ゲの用法の変化について考察したものである。本来 - ゲは、ある状態の現われとして話者が捉えた対象の外見を表すという意味を持つ接尾辞であり、- ゲの付加する語や文脈によってその容認度が大きく左右される制限の多い表現であるが、最近ではその用法が変化してきているように思われる。しかし先行研究ではこの用法の変化について言及しているものはないので、本論では、変化してきたと思われる - ゲの用法と、- ゲと似た意味を持つ助動詞 - ソウの用法とを比較することにより、- ゲの用法の変化を示そうと試みた。それに伴い、- ゲの付加する語の意味的な特徴と直接体験の有無という文脈上の事柄が、- ゲの用法の変化の要因となっているのか、アンケート調査を実施して検証した。その結果から - ゲの用法が - ソウの用法に近づくように変化してきていることをはっきりとは示すことは出来なかったが、変化している傾向があることはわかった。

## 目 次

1. はじめに.....	1
2. 先行研究.....	2
2.1. -ゲの本来の用法.....	2
2.2. 本来の用法の-ゲと-ソウとの違い.....	3
3. -ゲの用法の変化と-ソウへの接近.....	6
3.1. アンケート調査による考察.....	7
3.1.1. 方法.....	7
3.1.2. 結果の予想.....	8
3.1.3. 結果.....	9
3.2. 考察.....	10
4. まとめ.....	10
5. Appendix.....	12

## 1. はじめに

「言葉は生き物で、時代とともに移り行く」とよく耳にするが、実際に時代の移り変わりとともに使い方が変化してきた言葉というものはたくさん存在する。最近では広く使われている「全然大丈夫」や、「超おいしい」のような使い方もその例である。「全然～」は否定の表現と呼応する副詞であるため肯定の表現とは結び付かず、「超～」は名詞に付いて程度のはなはだしさを表すものであるため基本的に「おいしい」などの用言には付かない。このように、文法的には誤った使い方であるのに広く浸透してしまっている表現は多い。そのような、最近使い方（用法）の変化が見られるもののひとつとして、本論文では、現代日本語の接尾辞 - ゲを取り上げる。

まず、-ゲが本来どういう用法であるかを見てみよう。-ゲを用いた文章として、現代日本語では以下のような例が見られる。

- (1) 彼女は悲しげな様子で歩いている。
- (2) 父親は気むずかしげな顔で言った。
- (3) 彼は意味ありげな言葉を残して去っていった。

-ゲについて、『学研国語大辞典』は以下のように説明している。

- (4) 形容詞の語幹、体言、動詞の連用形について、形容動詞の語幹または名詞を作る。「…そうだ」「…のふうだ」「…らしい様子」などの意を表す。(p.568)

しかしこの説明だけでは、現代の日本語において使われる - ゲの付く語句についての制約がはっきりしない上に、-ゲと「…そうだ」「…のふうだ」「…らしい様子」が同じ意味となってしまう。-ゲと - ソウや - ラシイは必ずしも同じ意味ではないので、その説明だけでは十分ではない。

では - ゲはどのような接尾辞であるかという点、-ゲは、特定の語に接続して「ある状態の現われを、気配や雰囲気として話者が捉えた対象の外見を表す」というものである。ここでの「外見」とは、「ある内的特徴の現われと一般的にみなされるような表面的様子」のことを指す。また - ゲはもともと慣用的な表現で用いられることが多く、制約の多い接尾辞である。特に動詞に接続する場合の - ゲは、(3)のように「～ありげ」という形で現れることがほとんどであり、その他の動詞と結びつく例はあまり見られず、生産性は低い。また形容詞に関しても、(1)や(2)のような表現は可能であるが、「速げな車」「おいしげな料理」というような表現は認められず、接続する語の意味的な違いによっても制限があると考えられる。黄(2004)は、「『-げ』が接続する語基は『人間活動 - 精神および行為』を意味する語彙に多い。特に人間の感情・感覚をあらわす語彙につきやすい。」と述べており、さらに「『-げ』は、マイナス・イメージをおびる語基に比較的多く接続する。」とも説明している。他にも、例えば同じ重さに関する表現でも、「重たげな荷物」という表現はよく使われるが「軽げな

荷物」という表現はあまり見られない。同様に温度に関する表現でも、「涼しげな服」は使われるが「暖かげな服」という表現はあまり使われない。このように、重さや温度といった同じ類の語句であってもその容認度には差があることから、-ゲを用いた表現は、-ゲが付加する語によって制約のあるものであると言える。つまり-ゲは本来、どのような語にでも付くのではなく、ある程度意味の制限された形容詞や名詞、動詞に付き、ある状態の現われを気配や雰囲気として話者が捉えた対象の外見を表すものなのである。

このような-ゲの本来の用法においては、-ゲはかなり慣用的に用いられ、生産性は低いとされているのだが、最近の若者の会話文中などでは、-ゲが以前よりも頻繁に使われるようになってきたような印象を受ける。それも、従来のように慣用的な用いられ方だけでなく、より様々な形容詞につく例や、「～ありげ」という形以外で動詞につく例など、以下に挙げるような使われ方をするようになってきている。

- (5) この間街中で速げなバイクを見かけた。
- (6) 写真にはおいしげな料理が写っている。
- (7) OLが行きげなおしゃれなカフェはどこも開いていない。
- (8) 今にも雨が降りげな空模様だ。

形容詞においては(5)や(6)のような、今まで認められなかった形容詞に-ゲがつく表現が見られるようになってきた。また動詞においても「～ありげ」という形以外に、(7)や(8)のようにさまざまな動詞に-ゲをつけて用いる表現が見られるようになってきている。(5)や(6)の例は、本来の-ゲの用法と同じ意味で用いられているが、(7)や(8)の例は予想のような意味が含まれており、本来の-ゲの用法とは異なっているようである。これは接尾辞の-ゲと類似した意味をもった助動詞-ソウの意味・用法に、-ゲの用法が近づいていっているためではないかと思われる。そこで本論文では、接尾辞-ゲの用法と助動詞-ソウの用法との比較をしつつ、変化してきていると思われる-ゲの用法について考察していく。

本論文の構成は、以下の通りである。まず次章で変化してきている-ゲの用法を、本来の-ゲの用法と助動詞-ソウの用法を比較することから考える。そして第3章では、新たな-ゲの用法が-ソウの用法に近づいているとしたときに、それを検証するためにアンケート調査を実施し、その結果から、-ゲの用法の変化について考察する。

## 2. 先行研究

### 2.1. -ゲの本来の用法

接尾辞-ゲの用法が変化してきたことを、助動詞-ソウの用法と比較しながら考えていくために、まずは-ゲがどのような用法で使われているのか見てみる。ケキゼ(2002)では、-ゲの意味分析を行い、三つの用法に分類している。

- (9) 子供たちは庭で楽しげに遊んでいる。  
(10) 彼女はやさしげな笑顔を見せた。  
(11) 家の周りを怪しげな男がうろついている。

一つ目は、とらえた表面的様子を「感情・感覚」の現れとする(9)のような用法である。この用法は主に感情を表す形容詞（「うれしい」や「楽しい」など）や、「自信ありげ」のような形で感情を表すものに付加する場合に見られる。

二つ目は、とらえた表面的様子を「性格・属性」の現れとする(10)のような用法である。この用法は「ある人の内面について他人が下す属性判断を表す語句（「やさしい」や「厳しい」など）に接続して用いられる。

さらに三つ目の用法は、(11)のように、とらえた表面的様子を強調することで対象の実態についての断定を避ける「婉曲」の用法である。これは対象の外見を焦点化することで、対象の実態についての話者の主張をやわらげるというものである。この用法は「おぼつかかなげな足取り」や「奥ゆかしげな態度」などの語句でも用いられる。

このような接尾辞 - ゲの三つの用法は、ケキゼ（2000）において、アンケート調査の結果から「普通の日本語の表現である」と判定したものをリストアップし、それを分類した結果出てきたものである。被験者の容認度が高くなかった語に関してはリストから除外されており、ほとんど慣用的な表現となっているものが目立つ。したがって、若者を中心に最近新たに使われるようになってきた語句や用法については触れられておらず、-ゲの用法の全てについて述べているとは言えない。これでは本論で扱う - ゲについて述べるには十分ではないと思われる。

## 2.2. 本来の用法の - ゲと - ソウとの違い

では次に、接尾辞 - ゲと、それに似た意味を持つ助動詞 - ソウとの違いについて見てみるが、この二つの違いについては、中村(2000)、ケキゼ(2000)などで次のように述べられている。

中村(2000)では、-ソウと-ゲをそれぞれ次のように記述している。助動詞-ソウは、表現主体が直接には知覚できない他人の感情・感覚や、ものの属性を予想するという意味を持っている。したがって-ソウがつく語の表すものが、文の表している状況において、表現主体には知覚できない形で存在していなくてはならない。よって、-ゲから-ソウへの置き換えをするには、表現主体には直接捉えることの出来ない感情（属性）が存在していることが、文の表している状況から想定される場合でなければならない。しかし、表現主体にとって問題の感情（属性）の存在が明らかな場合は、(12a)や(12b)のように-ソウの使用は容認度に劣るとされている。

- (12) a. \*庄吉さんは上唇を隠すため口髭をのぼして今日に及んでいる。太く逞しそうな髭である。

- b. \*いかにも弱々しそうな秋の陽を受け、海の水は意外なほど綺麗だった。

これに対して -ゲは、感情が気配・雰囲気として認められるというものであり、予想するという意味はないとされている。また感情だけではなく、ものの属性も表現しうるが、その場合、表現主体の印象・感じを表す主観的な意味合いが強いという。では -ゲについては、表現主体にとって感情（属性）が文の記述している状況から明らかに考えられる場合はどうなのか、中村は(13)a や(13b)のような例をあげている。

- (13) a. 庄吉さんは上唇を隠すため口髭をのばして今日に及んでいる。太く逞しげな髭である。  
[中村(2000): p.78(31)]

- b. いかにも弱々しげな秋の陽を受け、海の水は意外なほど綺麗だった。

[中村(2000): p.78(32)]

(13)のような文では、その属性は表現主体にとって直接見たり、感じたりして明らかなことであるのにかかわらず、容認性に劣ることはない。このような文は、その属性が気配や雰囲気から感じられることを表すため、無標の形式とは異なった意味をもつものとして認められているとされている。

中村はこのように両者の違いを説明しているが、最近見られる用法であれば、(7)や(8)のような表現主体が直接には知覚できない他人の感情・感覚や、ものの属性を予想するという意味を持っているし、(13)のように属性が表現主体にとって直接見たり、感じたりして明らかなことであれば容認性に劣る。次のような文もその例である。

- (14) a. ?? (携帯電話の新製品のパンフレットを見て) デザインがダサげだ。

- b. ??ドライブ中は激しげな音楽を聴くことが多い。

これらの文は、表現主体が見たり聞いたりして体験していることであるため、感情や属性の存在が明らかであるが、本来ならば -ゲを付けて用いることができるはずである。しかし最近ではこのような表現は用いられなくなってきている。

したがって中村の説明では、最近の -ゲの用法を含めた接尾辞 -ゲの説明をしているとは言えない。むしろ(7)や(8)のような表現が使えたり、(13)や(14)のような表現が認められないのは、最近の -ゲの用法を含めた -ゲの本質が、ここで述べられている -ソウに近い意味を持っているからということになると言えるだろう。

さらにケキゼ(2000)では、-ゲは -ソウよりも定着度が低く、生産性も低いと述べられている。また意味的な特徴から、両者を次のように説明している。助動詞 -ソウは「与えられた事態が別の事態を成立させる条件としてとらえられた結果として述べられる」というような場面で使われるものであるとする。この説明に従うと、例えば「雨が降りそうだ」という文は、「雨が降る」事態を成立させる条件としてとらえられる「空が暗く、黒い雲が広がって

いる」ような場面であれば容認可能となるが、そうでない場面で発話すると容認できなくなることになる。ケキゼ（2002）は、-ソウを次の二つの用法に分けている。

- (15) a. （傾いている家を見て）あの家、倒れそうだね。  
b. （家に来る約束をした友人が、予定の時間をかなり過ぎても来ない）今日は来なさそうだな。
- (16) a. （新製品のお菓子を食べてみて、それがおいしかった）うん、これなら売れそうだ。  
b. （明日から家族と旅行に出かけるという友人の話を聞いて）それは楽しそうだね。

用法の一つ目は(15a)や(15b)のような「直前」の-ソウであり、これは時間的に連続して生じる二つの事態の関係から、ある事態が近く生じることを表すものである。ここで言う二つの事態とは具体的には、(15a)では「家が傾いている」という事態と「家が倒れる」という事態であり、(15b)では「友人が約束していたのに時間を過ぎても来ない」という事態と「友人が来ない」という事態である。ケキゼ（2002）によると、この「直前」の用法で用いられる-ソウは本来、接尾辞の-ゲでは置き換えられないとされている。というのも、この「直前」の用法は-ソウが動的な事象を表す動詞（「倒れる」や「降る」など）に接続して「ある事態が成立する直前の様子を表す」というものであるのに対して、-ゲが「ある内的特徴の表面的な様子への表れ」を述べるものであるため、「ある事態が成立する前」のことを表現することはできないからである。

そしてもうひとつの用法は、(16a)や(16b)のような「性質」の-ソウである。これは、同時に存在する二つの事態から、ある事態の性質を表現する。ここで言う二つの事態とは具体的には、(16a)では「お菓子がおいしい」という事態と「お菓子が売れる」という事態であり、(16b)では「家族と旅行に出かける」という事態と「楽しい」という事態である。(16a)で言うと、「お菓子が売れる」ということは「お菓子がおいしかった」ことから成立しうる事態であり、内的な特徴の現れではないため、-ゲで置き換えることはできない。

このような点で-ゲと-ソウは異なっていると述べられているが、一方で、共通点として両者とも婉曲的な表現を持つとも述べられている。-ソウは間接的に成立条件に言及することで、婉曲的な表現にすることも出来る一方、同様に-ゲも外見を焦点化することで、実体についての判断を避け、婉曲的な表現とすることが出来ると述べられており、これは共通した用法である。

ケキゼはこのように-ゲと-ソウの違いを述べているが、最近見られる-ゲについては、(8)のようにいわゆる「直前の-ソウ」の用法であり、本来の-ゲの用法として説明されているものは本論で取り上げている変化していると思われる用法とは異なっている。したがってケキゼの説明では現代で使われている-ゲの説明としては不十分である。

このように、中村(2000)、ケキゼ(2000)といった先行研究では-ゲと-ソウの違いが、感情・属性の存在という面や、成立条件と内的特徴の現れの違いなどといった意味的な違いから説明されていた。しかしこれらの先行研究は、「本来の-ゲの用法」と「最近見られる変化し



てきている「-ゲの用法」とを切り離して考えられておらず、接尾辞「-ゲの本質」を全て説明するには至っていないと思われる。先行研究が捉え損なっている「-ゲの本質」には、(7)や(8)のようなものが含まれており、それらは先行研究で述べられている「-ソウの用法」に近いものである。つまり最近見られるようになってきた(7)や(8)のような用法を含む、現代日本語における「-ゲの用法の本質」は、「-ソウ」に近づいているものであると言える。

### 3. 「-ゲ」の用法の変化と「-ソウ」への接近

このように、先行研究をもとに考えると、最近になってよく使われるようになった変化してきたと思われる「-ゲ」の用法は、本来の「-ゲ」の用法ではなく、「-ソウ」の用法と同じように使われており、「-ゲ」の用法自体が「-ソウ」の用法に近づいているように思われる。

このような最近の「-ゲ」の用いられ方から、「-ゲ」の用法が「-ソウ」の用法に近づいてきていると考えると、次のようなことが言えるのではないかとと思われる。

- (17) a. 「-ゲ」が「-ソウ」に用法が近づいてきているのであれば、本来できないはずの「-ゲ」と形容詞の組み合わせが使えるようになるはずである。  
b. 「-ゲ」が「-ソウ」に用法が近づいてきているのであれば、直接体験していることでは「-ソウ」と同様に「-ゲ」は使えないはずである。

まず一つは、慣用的に使われることの多かった「-ゲ」が、より多くの形容詞や動詞について用いられるということである。最近広く用いられるようになってきた(5)～(8)のような表現のように、今まで「-ゲ」をつけて使われなかった形容詞についても、容認度は高くなってきているはずである。

しかしながら次の例文は「-ゲ」をつけて使われないように、接続する語がどのようなものであっても認められる、というようになってきたわけではないようである。

- (18) a. 一枚だけ残った葉っぱが落ちそうだ。  
b. \*一枚だけ残った葉っぱが落ちげだ。  
(19) a. これは味付けの濃そうな料理だ。  
b. \*これは味付けの濃げな料理だ。

「-ゲ」はもともと「感覚・感情」（「うれしい」、「楽しい」など）や「性格・属性」（「やさしい」、「頼りない」など）という意味の語に付加するため、意味が「-ソウ」に近づいたとしても、その付加する語句に関する制限は残るのではないかと考えられる。

そしてもう一つは、中村(2000)で言われていた、感情（属性）が文の記述している状況から明らかに考えられる場合についてであるが、直接見たり聞いたりして体験している事物に関

しては - ソウと同様に - ゲもその容認性に劣るのではないかということである。 - ゲはもともと、気配や雰囲気から感じられるという意味であるので、(13a)や(13b)のように直接体験していることでも - ゲを使うことが出来るはずであるが、 - ソウに用法が近づいてきているのであれば直接体験していることでは - ソウと同様に - ゲは使えないはずである。

### 3.1. アンケート調査による考察

そこでこのような考えを確かめるために、本論文ではアンケート調査を行い検証した。最近になって - ゲが多く使われるようになってきたため、 - ゲをよく使うと考えられる若者を中心としたアンケート調査を実施し、その結果を考察する。なお前述したように、 - ゲが「～ありげ」という形以外で動詞について用いられる例も多くなってきており、その例も調査すべきであるが、先行研究では動詞については触れられていないため比較しやすいように今回は - ゲをつけて用いる語句は形容詞のみとする。

接尾辞 - ゲの用法が助動詞 - ソウの用法に近づいてきているため、標準的日本語では使えない - ゲと形容詞の組み合わせが、最近になり若者を中心として使われるようになってきたことを、アンケート調査の結果を用いて示す。またそこで「新たに使えるようになったと思われる形容詞」と「それでもやはり使えないと思われる形容詞」がどのようなものか、予想として分類したものがその通りなのかを確かめる。

さらに、直接体験している場合でも感情や属性などを表現するために使えるはずである - ゲが、直接体験している場合には使えなくなっていることを示すことで、 - ゲが - ソウに近づいてきていることを確かめる。

#### 3.1.1. 方法

実験文において - ゲのつくものは全て形容詞であり、先行研究では使われていると認められていなかった形容詞を用いて実験文を作成した。実験文はいずれも話者 A と話者 B の会話形式になっていて、 - ゲや - ソウを含む文は話者 B が発話する。実験文は全 60 問。次のような 4 つのグループからなり、1 つのグループあたり 15 問ずつとする。

#### (20) 被験者

18～21 歳の大学生が 28 名と、30 代と 50 代の社会人が各 2 名ずつの計 32 名。なお今回の調査では、方言や性別の違いによる差の可能性は考えないものとした。

#### (21) 実験方法

実験文の表現が「言える」か「言えない」かを、被験者に五段階で評価してもらう。またここでは、下線部の表現が一般的に使われるか使われないかではなく、被験者が個人的に言えるか言えないかを評価してもらう。

#### (22) 実験文

- a. 直接体験を伴わず、-ゲを用いた文
- b. 直接体験を伴わず、-ソウを用いた文
- c. 直接体験を伴い、-ゲを用いた文
- d. 直接体験を伴い、-ソウを用いた文

(22a)と(22b)、(22c)と(22d)は、それぞれ-ゲと-ソウを入れ替えただけで、以下に示すように文脈はまったく同じ文章である。

(23) (22a)の例

- A 「そういえば昨日新しく出来たお店に行ったって言ってたけど、店員さんはどんな感じの人だった？」
- B 「何歳なのかは聞かなかったけど、年は私と近げだったし、落ち着いた感じのっこいい人だったよ。」

(24) (22b)の例

- A 「そういえば昨日新しく出来たお店に行ったって言ってたけど、店員さんはどんな感じの人だった？」
- B 「何歳なのかは聞かなかったけど、年は私と近そうだったし、落ち着いた感じのっこいい人だったよ。」

(25) (22c)の例

- A 「先週から禁煙し始めたんだって？ちゃんと続いているの？」
- B 「一応今のところ禁煙は続けているけど、やっぱり口寂しげだからガムでも噛もうかな。」

(26) (22d)の例

- A 「先週から禁煙し始めたんだって？ちゃんと続いているの？」
- B 「一応今のところ禁煙は続けているけど、やっぱり口寂しそうだからガムでも噛もうかな。」

被験者には、二人の会話を読んだ後に、下線部の表現が言えるかどうかを評価してもらう。

### 3.1.2. 結果の予想

今回のアンケート調査では、「新たに-ゲを付けて使えるようになったと思われる形容詞」と「それでもやはり-ゲを付けては使えないと思われる形容詞」ではその文の容認度には違いがあるという結果が出るであろうと思われる。また、その用いられやすい形容詞とそうでない形容詞には傾向があり、ある程度分類することができるのではないかと考えられる。

予想としては、「新たに使えるようになったと思われる形容詞」は感情や性質を現すものであり、本来の-ゲの用法でも接続することができるものと同様の特徴を持った形容詞であると考えられる。-ゲは本来慣用的に用いられることが多かったが、それがもっとさまざま

な種類の形容詞に対しても用いられるようになってきていると思われる。また「それでもやはり使えないと思われる形容詞」は、感情や性質を表すものであっても普段あまり聞きなれない形容詞や、「厚い」や「早い」のような、抽象的關係を表す形容詞、また味や気象などの自然現象を表す形容詞であると思われる。これは本来の-ゲが「感情・感覚」、「性格・属性」といった人間の精神や行為を現すものであるため、抽象的な關係を表現する形容詞は-ゲに適さないからだと考えられる。

そして直接体験についてであるが、-ゲの用法が-ソウの用法に近づいてきているのであれば、直接体験のある実験文においては-ゲと-ソウの両者において被験者の評価は低くなると予想される。しかしまだ-ゲの用法が-ソウと完全に一致したとは考えられないので、いくつかの実験文においては、-ゲのほうが評価の高いものがあるのではないかと予想される。

さらに、-ゲをさまざまな言葉に付加して用いることは、最近になって若者の間で増えてきたように思われるので、年齢層の違いによって容認度にも差が出るのではないかとと思われる。

### 3.1.3. 結果

形容詞の語彙的な意味により容認度の差が出ることを予想していたが、語彙的な意味から分類できるほどのはっきりとした傾向は見られなかった。

しかし直接体験の有無による容認度には、予想の通り違いが見られた。

-ソウを用いた文に関して、②の「直接体験なし」の全ての実験文において約7割の被験者が4以上の評価をつけている一方、④の「直接体験あり」のほぼ全ての文においては、4以上の評価をつけた被験者が3割にも満たなかった。

しかし-ゲを用いた文においては結果は、-ソウを用いた文の結果とは異なっている。①の「直接体験なし」の実験文において、4以上の評価をつけた被験者が過半数を超えるものは1つしかなく、平均すると、4以上の評価をつけた被験者の数は3割程度であった。一方で③の「直接体験あり」の文に関しては-ソウの場合と同様に「直接体験なし」の文と比較して容認度が低く、大半の文において、4以上の評価をつけた被験者が2割にも満たなかったが、-ゲを使った文のほうが容認性の高いものがいくつか見られた。

以下に被験者の1/3以上が4以上の評価をつけた-ゲを用いた言葉のリストを示す。<sup>1</sup>

近げ、やばげ、短げ、高げ、辛気臭げ、みすぼらしげ、ふさわしげ、馴染み深げ

---

<sup>1</sup> なお、リストに含まれていない単語については次のような結果が出ている。「直接体験なし」の-ゲの実験文で用いた単語のうち、4以上の評価をつけた被験者が2割以下だったものは以下のものである。

(i) 厚げ、早げ、すばやげ、うるさげ、すばらしげ、しつこげ、おいしげ

また「直接体験あり」の「げ」の実験文で用いた単語は以下のものである。

(ii) 近げ(距離)、ダサげ、激しげ、古臭げ、重々しげ、ダルげ、おもしろげ、口寂しげ、恐ろしげ、寝苦しげ、ウザげ、回りくどげ、そそっかしげ、汚げ、寒げ

### 3.2. 考察

まず -ゲをつけて用いられる形容詞であるが、これは予想とは異なっていた。アンケート調査の結果から、容認度の高かった形容詞について、『分類語彙表』を利用して分類してみると、-ゲのもともとの意味から容認度は高いであろうと予想していた、「人間関係 - 精神および行為」に分類される「感情」や「感覚」を表す形容詞は、1/3 程度（辛気臭い、みすぼらしい、ふさわしい、馴染み深い）しか認められなかった。それに対して、あまり認められないであろうと予想していた「抽象的關係」に分類される「距離」や「重さ」、「程度」を表す形容詞は、「人間関係 - 精神および行為」と同程度の数が（近い、やばい、短い、高い）認められていた。これは -ゲの用法が元来の -ゲの持つ意味から、より -ソウの用法に近づいたからではないかと思われる。しかしやはり、黄(2004)で示していたように、「すぼらしい」や「おもしろい」のようなプラスの語ではなく、「みすぼらしい」「辛気臭い」といったマイナスイメージの語につくものが多かったため、-ゲの元来の意味が薄れてきているわけではないと考えられる。

また直接体験についてであるが、直接体験のある文においては、-ゲと -ソウの容認度の間に有意な差が見られたものはほとんどなかった。これはつまり、直接体験のある文中では -ゲであっても -ソウと同様に認められないということであり、直接体験のある場合でも「気配・雰囲気として感じられる」という本来の -ゲの用法から、「感情や属性の存在が直接体験から明らかである場合には容認性に劣る」という -ソウの用法に近づいたと言えるだろう。

さらに年齢による差があるのではないかと思われたが、20 歳前後の大学生の被験者と、30 代、50 代の被験者の間に差は見られず、年齢による容認度の差はないと思われる。ただし、年代ごとの被験者の人数が同じではないため、参考程度にとどめておく。

### 4. まとめ

本論文は、接尾辞 -ゲの用法が変化し、似た意味をもつ助動詞 -ソウに近づいていることを検証すべく、直接体験の有無と形容詞の語彙的な意味の面からアンケート調査を実施し、その結果を考察した。

まず、最近では -ゲがさまざまな語に付いて用いられるようになってきていることから、-ゲを付けて使うことのできる語句が増え、助動詞 -ソウの用法に近づいたということを示そうとした。検証の結果、形容詞の語彙的な意味の面からははっきりした用法の変化を示すことはできなかったが、もっとたくさんの形容詞について調査を行うことにより、より確実な結果が出るのではないかと思われる。また形容詞だけでなく動詞や名詞においても調査をすることにより、用法の変化を確かめることができるのではないかと思われる。

また直接体験の有無という面から、直接体験があっても使えていた -ゲが、助動詞 -ソウと同様に直接体験があっては使えないということを示し、用法の変化を確かめようと試みた。その結果今回のアンケート調査では、直接体験がある場合は -ゲの容認度は低く、-ソウの用法に近づいているのではないかという結果になった。しかし本当に -ゲの用法が -ソウの

用法に近づいてきているのなら、ケキゼ(2002)で言われているような - ソウの「直前」の用法などについても、- ゲに関して使えるようになってきているはずであるので、今後の調査が必要となってくると思われる。

さらに今回の調査結果では、年齢による差は見られなかったが個人差が大きく、- ゲを用いた表現を「言える」と答えた被験者はほとんどの- ゲを用いた文において容認度が高く、逆に「言えない」と答えた被験者はほとんどの文において容認度が低かった。個人間の差がはっきりしているようなので、今回とりあげたような用法の変化はまだはっきりと認められないと言えるかもしれない。

## 参考文献

- 金田一春彦・池田弥三郎(編)『学研国語大辞典』第二版. 東京: 学習研究社
- ケキゼ・タチアナ (2000) 「『(～し) そうだ』の意味分析」『日本語教育』107: 7-15.
- ケキゼ・タチアナ (2002) 「『げ』の意味分析」『日本語文法』2(1): 3-21.
- ケキゼ・タチアナ (2002) 「『(～し) そうだ』の意味再考 ～「げ」と比較して～」『言葉と文化』3: 21-30. 愛知: 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 日本言語文化専攻.
- ケキゼ・タチアナ (2003) 「現代日本語における表現の『やわらげ』 ～「そうだ」、「げ」、「ぼい」などの場合～」『言葉と文化』4: 293-306. 愛知: 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 日本言語文化専攻.
- 黄其正 (2004) 『現代日本語の接尾辞研究』. 広島: 溪水社
- 国立国語研究所 編 (2004) 『分類語彙表 増補改訂版 国立国語研究所資料集 14』. 東京: 大日本図書
- 中村亘 (2000) 「接尾辞『げ』の意味・用法 —「そう」との事態把握の違いを通じて—」『早稲田大学大学院研究紀要、第3分冊、日本文学演劇美術史日本語文化』: 73-82. 東京: 早稲田大学大学院文学研究科.

## 5. Appendix

以下にアンケート調査で用いた実験文を掲載する。

- (27) A 「そういえば昨日新しく出来たお店に行ったって言ってたけど、店員さんはどんな感じの人だった？」  
B 「何歳なのかは聞かなかったけど、年は私と近げだったし、落ち着いた感じのかつこいい人だったよ。」
- (28) A 「最近の経済不況で、自動車業界では売り上げが悪いみたいだね。」  
B 「そうだね。実際どうなのか知らないけど、大手企業の売り上げもやばげだよね。」
- (29) A 「先週から気温が低くて、湖の表面が凍ってるみたいだけど、今日はどうだろうね。厚い氷が張ってるかな？」  
B 「まだ見てないけど、今日は特に寒いから、氷も厚げだね。」
- (30) A 「駅前に新しく焼き肉屋が出来たらしいね。二人で食べに行ったらいくらぐらいかかるか知ってる？」  
B 「私も値段は知らないんだ。おいしいって評判だけど、そのぶん値段も高げだから、下調べしてから行ってみたほうがいいかもね。」
- (31) A 「この間貸した本の中にあっと思ったと思うけど、『今日を生きる』って本読んだ？」  
B 「あれね、タイトルからして内容も辛気臭<sup>しんきくさ</sup>げだったからまだ読んでないよ。」
- (32) A 「ちょっと知識があると通ぶる人っているよね。」  
B 「いるいる。この間一緒に食事に行った人がいて、本当にワインに詳しいのかは知らないけど、やたらとワインにうるさげな人だったから、面倒くさかったよ。」
- (33) A 「お腹すいたから何か食べに行こうよ。」  
B 「うちの近くのパン屋さんにすごく人気のクロワッサンがあるんだ。まだ食べたことないんだけど、おいしげだから買いに行こうか？」
- (34) A 「今日も大通りは車で混んでるね。会社まで回り道したらここから30分くらいかかるけど、回り道したほうが早く着くかな？」  
B 「俺は昨日も同じ時間帯にこの大通りを通ったけど、ここから会社まで45分くら

いかかったから、回り道したほうが早げだね。」

- (35) A 「学校の裏にある小さい本屋って行ったことある？小さい店だから、店内は汚かったりするのかな？」  
B 「実際に入ったことはないけど、外装の汚さから考えて、内装もみすぼらしげだよね。」
- (36) (海沿いの道をドライブしていて)  
A 「あその崖の上に建ってるのが僕の親戚の家なんだ。」  
B 「へえ、海沿いであれだけ開けた場所に建ってる家なら、ベランダからの景色もすぼらしげだね。」
- (37) A 「風邪の予防で、手洗い、うがいはちゃんとしてる？」  
B 「もちろん。まだ風邪をひいてはいないけど、話によると今年の風邪はしつこげだから、まず予防することを考えなきゃいけないしね。」
- (38) A 「来春公開になるハリウッドの映画って、どんな話かまだ発表されてないんだけど、日本の有名なアニメの話をもとにして話を考えたんだってさ。」  
B 「それなら詳しい話は知らなくても、日本人にとっては内容が馴染み深げだから、意外とヒットするかもしれないね。」
- (39) A 「この間知り合いの猟師さんに聞いたんだけど、鹿よりも猪のほうが捕まえるのが難しいらしいよ。」  
B 「そうなんだ。さすがに鹿と猪が競走してるところを見たことはないけど、猪よりは鹿のほうがすばやげなのにね。動きの速さの問題だけじゃないのかな。」
- (40) A 「さっきからずっとそのシャツを見てるけど、気に入ったなら買っちゃえば？何か問題があるの？」  
B 「うん、せっかくかっこいいシャツを見つけたんだけど、サイズがMしかないんだよね。これだと僕が着るには少し袖が長いし、比べてみたことはないけど、弟のほうが僕よりずいぶん腕が長いから、着せてみないとはっきりはわからないけど、弟が着るには袖が短げなんだ。」
- (41) A 「来年開催される野球のWBCの監督選考でもめてるみたいだね。ちなみに君は誰がいいと思う？」  
B 「私は野球にはそんなに詳しくないから、本当にそうなのかわかんないけど、今度のWBCの監督にふさわしげなのは、やっぱり王さんかな。」



- (42) A 「先週から公開になってるあの映画、見た？」  
B 「公開初日に見に行ったよ。映像もよかったし、話の内容もおもしろげだったから、おすすめだよ。」
- (43) A 「日本一寒い町って、北海道の陸別町っていうところらしいね。」  
B 「以前冬場に一回だけ行ったことがあるんだけど、あそこは寒げだったよ。」
- (44) A 「今度携帯の機種変しようかと思うんだ。出来れば今契約してる会社の新製品にしたいんだけど、デザインがよくないんだよね。」  
B 「僕もその新製品のパンフレット見たけど、確かにデザインはダサげだったね。思い切って他の会社のにしたら？」
- (45) A 「ドライブ中ってどんな音楽聴いてる？」  
B 「眠くならないように、結構激しげな曲を聴いてることが多いかな。しっとりした曲も好きなんだけどね。」
- (46) A 「先月から始まったあのドラマがちょっと気になってるんだけど、見てる？」  
B 「一応見てるけど、設定が古臭げだし、台詞回しもいまいちだから、今から見なくてもいいと思うよ？」
- (47) A 「新しい参考書を買ったって言ってたけど、使ってみてどんな感じ？」  
B 「説明が回りくどげで、いまいちわかりにくいよ。これなら別の参考書にしといたほうがよかったかも。」
- (48) A 「君の弟さんには会ったことないんだけど、どんな人なの？」  
B 「しょっちゅう忘れ物をするようなそそっかしげなやつだけど、<sup>ひとなつ</sup>人懐こい感じだから会ったらすぐに仲良くなれると思うよ。」
- (49) A 「さっきからなかなか寝付けないみたいだけど、大丈夫？」  
B 「うん、今夜も蒸し暑いからだと思うけど、寝苦しげだよ。」
- (50) A 「今日はお疲れの様子だね。昨日何かあったの？」  
B 「それがさ、両親が喧嘩してたらしくて、家に帰ったら重々しげな雰囲気でさ。間を取り持ったから気疲れしちゃったよ。」

- (51) A 「周りの人のことを考えないやつっているよね。」  
B 「あ〜いるよね。この前バスに乗ってたら、やたらとうるさいウザげな学生が2人乗ってきてさ、どこの学生かと思ったらうちの大学だったよ。」
- (52) A 「料理って見た目も大事だけど、やっぱり一番大事なのは味だよね。」  
B 「本当？じゃあ昨日焼いたクッキー、ちょっと形が汚げになっちゃったけど、食べてくれる？」
- (53) A 「先週から禁煙し始めたんだって？ちゃんと続いているの？」  
B 「一応今のところ禁煙は続けてるけど、やっぱり口寂しげだからガムでも噛もうかな。」
- (54) A 「さっきから顔色が悪いけど、大丈夫？」  
B 「うん、あんまり大丈夫じゃないかな。身体もダルげだし、熱があるみたいだから、風邪引いたのかもしれない。」
- (55) A 「そういえば君の家って学校から歩いて1分くらいだったよね？それだと家賃も高いんじゃない？」  
B 「確かにうちは学校からずいぶん近げなんだけど、実は家賃はそれほど高くはないんだ。」
- (56) A 「この間あの有名な心霊スポットのトンネルに行ってきたって言ってたけど、やっぱり怖かった？」  
B 「実際に行ってみる前に思ってたよりは雰囲気もあって、トンネルに入った時は恐ろしげだったよ。」
- (57) A 「そういえば昨日新しく出来たお店に行ったらって言ってたけど、店員さんはどんな感じの人だった？」  
B 「何歳なのかは聞かなかったけど、年は私と近そうだったし、落ち着いた感じのかわこいい人だったよ。」
- (58) A 「最近の経済不況で、自動車業界では売り上げが悪いみたいだね。」  
B 「そうだね。実際どうなのか知らないけど、大手企業の売り上げもやばそうだよね。」
- (59) A 「先週から気温が低くて、湖の表面が凍ってるみたいだけど、今日はどうだろうね。厚い氷が張ってるかな？」

- B 「まだ見てないけど、今日は特に寒いから、氷も厚そうだね。」
- (60) A 「駅前に新しく焼き肉屋が出来たらしいね。二人で食べに行ったらいくらぐらいかかるか知ってる？」
- B 「私も値段は知らないんだ。おいしいって評判だけど、そのぶん値段も高そうだから、下調べしてから行って見たほうがいいかもね。」
- (61) A 「この間貸した本の中にあっただと思うけど、『今日を生きる』って本読んだ？」
- B 「あれね、タイトルからして内容も辛気臭<sup>しんきくさ</sup>そうだったからまだ読んでないよ。」
- (62) A 「ちょっと知識があると通ぶる人っているよね。」
- B 「いるいる。この間一緒に食事に行った人がいて、本当にワインに詳しいのかは知らないけど、やたらとワインにうるさそうな人だったから、面倒くさかったよ。」
- (63) A 「お腹すいたから何か食べに行こうよ。」
- B 「うちの近くのパン屋さんにすごく人気のクロワッサンがあるんだ。まだ食べたことないんだけど、おいしそうだから買いに行こうか？」
- (64) A 「今日も大通りは車で混んでるね。会社まで回り道したらここから30分くらいかかるけど、回り道したほうが早く着くかな？」
- B 「俺は昨日も同じ時間帯にこの大通りを通ったけど、ここから会社まで45分くらいかかったから、回り道したほうが早そうだね。」
- (65) A 「学校の裏にある小さい本屋って行ったことある？小さい店だから、店内は汚かったりするのかな？」
- B 「実際に入ったことはないけど、外装の汚さから考えて、内装もみすぼらしそうだよね。」
- (66) (海沿いの道をドライブしていて)
- A 「あそこの崖の上に建ってるのが僕の親戚の家なんだ。」
- B 「へえ、海沿いであれだけ開けた場所に建ってる家なら、ベランダからの景色もすぼらしそうだね。」
- (67) A 「風邪の予防で、手洗い、うがいはちゃんとしてる？」
- B 「もちろん。まだ風邪をひいてはいないけど、話によると今年の風邪はしつこそうだから、まず予防することを考えなきゃいけないしね。」

- (68) A 「来春公開になるハリウッドの映画って、どんな話かまだ発表されてないんだけど、日本の有名なアニメの話をもとにして話を考えたんだってさ。」  
B 「それなら詳しい話は知らなくても、日本人にとっては内容が馴染み深そうだから、意外とヒットするかもしれないね。」
- (69) A 「この間知り合いの猟師さんに聞いたんだけど、鹿よりも猪のほうが捕まえるのが難しいらしいよ。」  
B 「そうなんだ。さすがに鹿と猪が競走してるのところを見たことはないけど、猪よりは鹿のほうがすばやそうなのにね。動きの速さの問題だけじゃないのかな。」
- (70) A 「さっきからずっとそのシャツを見てるけど、気に入ったなら買っちゃえば？何か問題があるの？」  
B 「うん、せっかくかっこいいシャツを見つけたんだけど、サイズがMしかないんだよね。これだと僕が着るには少し袖が長いし、比べてみたことはないけど、弟のほうが僕よりずいぶん腕が長いから、着せてみないとはっきりはわからないけど、弟が着るには袖が短そうなんだ。」
- (71) A 「来年開催される野球のWBCの監督選考でもめてるみたいだね。ちなみに君は誰がいいと思う？」  
B 「私は野球にはそんなに詳しくないから、本当にそうなのかわかんないけど、今度のWBCの監督にふさわしそうなのは、やっぱり王さんかな。」
- (72) A 「先週から公開になってるあの映画、見た？」  
B 「公開初日に見に行ったよ。映像もよかったし、話の内容もおもしろそうだったから、おすすめだよ。」
- (73) A 「日本一寒い町って、北海道の陸別町っていうところらしいね。」  
B 「以前冬場に一回だけ行ったことがあるんだけど、あそこは寒そうだったよ。」
- (74) A 「今度携帯の機種変しようかと思うんだ。出来れば今契約してる会社の新製品にしたいんだけど、デザインがよくないんだよね。」  
B 「僕もその新製品のパンフレット見たけど、確かにデザインはダサそうだったね。思い切って他の会社のにしたら？」
- (75) A 「ドライブ中ってどんな音楽聴いてる？」  
B 「眠くならないように、結構激しそうな曲を聴いてることが多いかな。しっとりし

た曲も好きなんだけどね。」

- (76) A 「先月から始まったあのドラマがちょっと気になってるんだけど、見てる？」  
B 「一応見てるけど、設定が古臭そうだし、台詞回しもいまいちだから、今から見なくてもいいと思うよ？」
- (77) A 「新しい参考書を買ったって言ってたけど、使ってみてどんな感じ？」  
B 「説明が回りくどそうで、いまいちわかりにくいよ。これなら別の参考書にしといたほうがよかったかも。」
- (78) A 「君の弟さんには会ったことないんだけど、どんな人なの？」  
B 「しょっちゅう忘れ物をするようなそそっかしそうなやつだけど、人懐ひとなつこい感じだから会ったらすぐに仲良くなれると思うよ。」
- (79) A 「さっきからなかなか寝付けないみたいだけど、大丈夫？」  
B 「うん、今夜も蒸し暑いからだと思うけど、寝苦しそうだよ。」
- (80) A 「今日はお疲れの様子だね。昨日何かあったの？」  
B 「それがさ、両親が喧嘩してたらしくて、家に帰ったら重々しそうな雰囲気です。間を取り持ったから気疲れしちゃったよ。」
- (81) A 「周りの人のことを考えないやつっているよね。」  
B 「あ〜いるよね。この前バスに乗ってたら、やたらとうるさいウザそうな学生が2人乗ってきてさ、どこの学生かと思ったらうちの大学だったよ。」
- (82) A 「料理って見た目も大事だけど、やっぱり一番大事なのは味だよな。」  
B 「本当？じゃあ昨日焼いたクッキー、ちょっと形が汚そうになっちゃったけど、食べてくれる？」
- (83) A 「先週から禁煙し始めたんだって？ちゃんと続いているの？」  
B 「一応今のところ禁煙は続けてるけど、やっぱり口寂しそうだからガムでも噛もうかな。」
- (84) A 「さっきから顔色が悪いけど、大丈夫？」  
B 「うん、あんまり大丈夫じゃないかな。身体もダルそうだし、熱があるみたいだから、風邪引いたのかもしれない。」

- (85) A 「そういえば君の家って学校から歩いて1分くらいだったよね？それだと家賃も高いんじゃない？」
- B 「確かにうちは学校からずいぶん近そうなんだけど、実は家賃はそれほど高くはないんだ。」
- (86) A 「この間あの有名な心霊スポットのトンネルに行ってきたって言ってたけど、やっぱり怖かった？」
- B 「実際に行ってみる前に思ってたよりは雰囲気もあって、トンネルに入った時は恐ろしそうだったよ。」